

ちよあ

第 1 2 号

平成 1 3 年 9 月
千代田岳精会弘報

岳精流日本吟院全国吟道大会

会場に溢れる全国の熱気

青空の下、岳精流日本吟院の全国吟道大会は、二千人近い会員の熱気で溢れんばかりでした。

ご高齢の宗家は、ご挨拶で吟への想い、吟縁への感謝の気持ちを力強く述べられました。

千代田全員の迫力溢れる合吟は、会長先導で項籍作「垓下の歌」

大会の華、合吟コンクールは廿三の代表により競われ、千代田は広瀬淡窓作「西教寺を訪う」で大

健闘でしたが、出場チームのレベルは高く、優勝「大村」、準優勝

「三河」、三位「天童王将」と女性チームが上位を独占、残念ながら入賞には届きませんでした。

今年はコンクール担当として事前準備、当日の進行、伴奏、採点の集計、表彰式を分担して取り組みましたが、錬水教場の担当で初めて集計にパソコンを導入、迅速かつ正確と高く評価されました。

吟縁・テクノ・美吟

会長 飯田 龍麿

限りなき吟縁の碑やさつき風

颯々と薫風わたる五月十一日、西多摩霊園の玄関に「吟楽の碑」が建立除幕された。正面左に吟魂碑、右に吟楽（吟縁）の碑である。ご遺族の希望等もあって、千代田からは、既報の通り、三物故者が合祀、刻印された。式後宗家のご挨拶の中に、吟縁は限りなく永遠であるとの言葉があった。折しも野をわたる薫風は、人々の頬を心地よく撫で、霊園全体を赤く彩るさつきの花は見事であった。三氏の思い出は皆さん夫々に

あり、尽きないものがある。
金田 一京助作「道の辺に 咲くやこの花 花にだに 縁なくして我逢うべしや」

コンクール係テクノを用いけり

全国吟道大会で千代田は昨年迄三年間会場係で奮闘。今年は部署が変ってコンクール担当、趣を異にした。審査点数の正確な計算、合吟コンクール順位・表彰の迅速確定、表彰状三六枚の作成と、大会フィナーレを飾る表彰式における明朗性、整々が要求される。

吟の女 話さわやか 声美しく

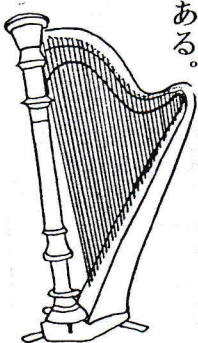
此処で計算チーム（錬水教場）は、大会史上初めてのテクノを用いた計算を展開。コンピュータ二機の登場によって見事に責任を果たし、審査結果のあらゆる角度からのデータを出す事が出来た。また、肅々、整々、明朗の表彰式は、名司会者（吉川氏）の菌切れのよい天下一の声で立派に納まった。

八月十一日、千代田で初めての婦人部の集いが持たれた。いよいよ女性の時代の到来か。詩吟外の友人から女性も詩吟をやるのかと聞かれる。それは認識不足、目の醒めるような女性の吟を聴いてい

幼少年の清冽な、寿栄の若々しい、コンクール優勝者の堂々とした吟詠、本部の先生方、各会長、支部長の方々の格調高く風雅な吟、それぞれ感銘深いものでした。
特別番組「生誕千三百年詩仙李白を詠う」は李白の傑作を心ゆくまで堪能出来た楽しい企画でした。宗家、宗嗣、高段の先生方の吟を緊張して拝聴する中に、詩舞、秩父音頭、東京音頭等カラフルな舞台があり、ホッと一息つける感じでした。全員合吟「富士山」で終了。全国の会員の皆さん、また来年元気に再会しましょう。

ないからである。今年の全国大会のコンクール出場廿三組中、廿組が女性、しかも入賞三組とも女性であった。

さて、かねてより感ずるのは、吟詠の女性の話は明るく爽やかであり、本部役員の女性方、各会の女性も立派に素敵な話をされる事。それは話し言葉が明瞭、吟で鍛えた母音の綺麗な声が、大勢の前でも隅々まで通る美しい声だからだ。人々に「私も詩吟をやって、日頃あんな綺麗な声を出してみたい」と思わせる事は、世の為、人の為でもある。



華やかな祝吟で大盛會



今年二月、目出度く十周年を迎えた東陽町教場は、五月九日中野ゼロホールでプログラムから司会・進行まで全て会員の手造りの記念温習会を開催いたしました。

当日は、本部より横山精真宗嗣、渡 精華副幹事長両先生をはじめ多くのご来賓を迎え、吟友達もお祝いに駆けつけ、豪華絢爛な吟詠が繰り広げられました。

フィナーレは、教場長を勇退された磯田副会長への花束贈呈で、教え子で初の準師範花山桜山さんより手渡され、吟楽ここに極まった最高の笑顔でした。

礼辞 副教場長 武田 弘泉

五月九日、中野ゼロホールにおいて当教場開設十周年記念温習会を開催いたしました。当日は、宗嗣横山精真先生、副幹事長渡 精華先生を始めとして、多くのご来賓・吟友に参加して頂き、当教場の会員を加えて出席者総数は六十七名に上り、盛会裏に終了することができました。ご多忙にも拘らずご出席下さり、十周年を素晴らしい吟で祝って下さった皆様に、改めて心からお礼申し上げます。温習会では、参加者の独吟披露の間に「教場思い出の詩」として次の四題をはさみ、これを全員で

合吟していただきました。これ等の四題は、当教場十年の歩みの中で特に印象に残る詩で、出席の皆様がこれらの合吟に参加されることで当教場へのご理解が深められる一助になればとの願いを込めて選定したものです。

① 桑乾を渡る 賈 島

転動に次ぐ転動―共歎共苦のサラリーマン時代を偲んで……

② 仲秋の月 蘇 軾

今は亡き今橋麗泉がこよなく愛した詩、素敵な声だった……

③ 浜千鳥―つりがね草

母を亡くしたある少年の作

千代田岳精会発足記念大会で東陽町教場全員で合吟。しみじみと情感を込めて―好評だった……

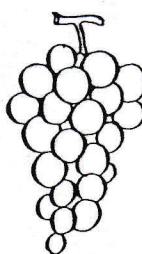
④ 歩いてゆけなければ

武者小路 実篤

教場開設初日の吟題。初心忘るべからず―「歩いてゆけなければ」ば這ってでも行こう……

本年の当教場のスローガンは、「吟友と楽しく、吟友を増やそう」です。この温習会を飛躍台として、今まで以上に明るく伸びゆく教場の実現を目指して努力を重ねて行く所存です。皆様の変わらぬお力添えをよろしくお願い申し上げます。

吟と舞いに大きな拍手



詩吟を一般の方々楽しんでいただく初めての試みとして、清水教場の老人ホーム慰問が行なわれ、戦後の復興を支えて来た年代の方々に、大変喜んで頂けました。

清水教場の皆さんは、果たしてお客様が集まって下さるか不安があった様で、その結果、剣詩舞が加わったそうです。この貴重な体験に、お客様のニーズをよく検討し、詩吟十何かの型を模索して、出演しやすくする事を加えることが、今後に繋ぐ為にも必要だと思

うと、感想を承りました。飯田会長がかねてより提唱の外部との接点の拡大として、千代田岳精会が今後取組む意義のある指標と思われる。

清水副教場長 大概 鉾泉

六月二十七日、清水教場有志十一名は剣詩舞宗家小林玲舟先生のご協力を得て、油壺の有料老人ホーム「ビバリーコート油壺」で慰問演奏を行いました。

この施設は、清水建設グループが維持運営をしている老人ホームで、六十歳以上の方々が入居されています。

前々から飯田会長が「詩吟を拡めるには外に出て、大衆との接点を持つことが大事で、老人ホーム

等を視野に入れて考えてはどうか」と言っておられました。そして偶々酒席でビバリー油壺に詩吟の慰問訪問をしたらとの意見が出され、詩吟に剣詩舞が加われば、より喜ばれるだろうと言うことになり、忽ちこの案が決ったのです。

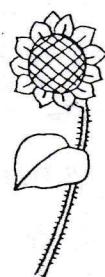
プログラムの内容は何と言っても聞く方の興味を惹くものにしたと考え、漢詩ばかりでなく、今様、俳句も入れ硬軟両用の選択をしました。又吟者が精一杯吟ずる事によって聴く方は感動するわけです。吟者の最も得意とする吟を選びました。更に華やかな詩舞剣舞が加わって約四十名のお客様は初めから最後まで七十分、興味深く盛大な拍手を送られました。勿論座を立つ人はありません。

会が終わってから、二、三の人に聞きましたら、皆さんのとても力強い吟を聞き、元気が湧いたとの感謝の言葉でした。

今回のような企画を他の「ビバリーコート」等にも展開したいと思ひます。吟を自分たちのものとして楽しむと同時に、他人も楽しませる為。また、会員が増えるように、その他の場所での働きかけをする事も今後の課題ではないかと思つた次第です。

第一回婦人部研修会

吟は仲良く美しく



男性社会といわれる千代田で、初めて行なわれた婦人部研修会は、本部より渡 精華副幹事長、前澤龍淳婦人部部長、古城龍幸婦人部副部長他の来賓をお迎えして、八月十一日中野ゼロホールで開催された。婦人部の発展を期待した各教場より応援の男子が続々とつめかけ、七十名を越える会場の半数以上は赤いネクタイ。

渡先生、飯田会長の指導吟は懇切で楽しく、各教場より男女一名字づつが吟詠指導を頂いた。

各教場の代表吟詠で盛り上がり、ご来賓の方々の品格溢れる高度な吟詠を拝聴して、意義ある第一回婦人部研修会は終りとなり、菅原婦人部門リーダーより、開催にあたりご支援を頂き、来場下さった来賓の方々に感謝が述べられ、諸手配、準備設営に協力の男子吟友一人一人への謝辞で閉幕した。

特に、全国大会でも大活躍の錬水教場が、得意のITを駆使した映像を使つての演出は見事だった。会場を移しての懇親会は、太田婦人部サプリーダーの司会で前澤先生のご挨拶で始まり、今研修会の成功に粉骨碎身の婦人部幹部の方々を慰労し大変な盛り上がりで、全員が満ち足りてお開きとなった。

全国吟詠コンクール神奈川県大会 渋谷辰泉氏（東陽町）入賞！

地区予選を見事突破し、五月廿日の県大会に出場の方々の内、一般三部で昨年に続き予選クリアの渋谷辰泉氏が実力を十分に発揮し初入賞を果たされました。

全国吟詠コンクール川崎地区 予選に出場して

ハザマ教場 遊佐 梅泉

四月廿九日、全国吟詠コンクール神奈川県大会の地区予選が川崎市総合自治会館で行なわれ、私は飯田会長のお勧めにより、初参加させて頂いた機会に浴した。

七十歳以上九四名が出場する一般三部に出場したが、予選通過を果たすことが出来ず誠に慙愧に堪えません。会長の特訓、鈴木先生のご指導を仰ぎ、或程度自信を持って臨んだものの、初めての出場場でコチコチに固くなり意図した吟が出来なかった。

特に音程が狂ったこと、自然の声が出なかったこと等で吟の味を出すことが出来ず、減点が多かった為であると納得している。その第一の原因は、詩の意味が充分理解

できないまま暗譜を主体に練習した結果であると理解している。明年は今年の轍を踏むことのないよう精進したいと思う。

当教場からは六名が出場したが、二部で城戸さん、三部で中川さんが予選を突破し県大会に駒を進められた。慶びに堪えない。ご健闘を祈るや切。

全国吟道大会に参加して

ハザマ教場 高橋 健一

今年入会の新人が流統最高の年一度の「全国吟道大会」に初めて参加させて頂き、参加者の多さに驚き、自分が合吟の輪に入れるか不安はあったが何とか大きな声を出せたと思います。

第六部特別番組「生誕千三百年、李白を詠う」では、不遇なうちに豪放に生き、六十二歳で亡くなるまでの李白の心情に溢れた詩文、吟を拝聴し、その素晴らしさに感動し、「詩吟」の奥深さを教えていただき、これからの練習に励んで行こうと思いました。

合吟コンクールに出場

丸の内第二教場 八田 豊

全国吟道大会で二年振りに行われた合吟コンクールは廿三の代表が日頃鍛えた吟を競った。広瀬淡窓作「西教寺を訪う」で挑戦した

十名に、吟歴二年余りの私も連なつたが、当然入賞には届かなかった。上位入賞は全て女子、八本の高さ、十人の節調、止めの調和が素晴らしいだけでなく、姿勢、歩き方、視線、手の動き、着物の着付け、全てに裏とした品格が感じられ我々とは隔たりがあった。普段の練習で、一つ一つを積み重ねて、はじめて身に付くものだろうと感じています。

全国大会を終えて

丸の内第一教場 魚井 啓山

毎年、千代田岳精会が大会運営の手伝いをしているのは知っていましたが、今年はコンクール運営係で、私の様な者でも何かのお役に立てばと思つていたところ、井手先生より、入賞者への連絡呼び出し係を仰せつかった。運営控室で説明を受け、十五時過ぎにコンクールの審査結果が決定したので、その旨を伝えるに行くことになった。

優勝チームに連絡である、「大村岳精会」座席表を手間違つてはいけないので本場に身の引き締まる思いがした。

優勝チームには宗家より表彰状が、宗嗣始め諸先生より金メダルが授与されるので出場者全員壇上に上がっていただきたい旨お伝えしたが、遠方ゆえすでに三名は帰ってしまったとの返事に、どのよ

